

背景

- 国際航空ネットワークにおいては、従来、直行便による二国間の輸送を中心に議論及び検討。
- 近年では、**第三国輸送**（出発地及び到着地のいずれでもない国を経由する輸送）が**拡大**。

目的

- 国際航空ネットワークの変化による我が国の対応のあり方の検討に資する基礎資料を作成。

海外調査の内容

対象空港：仁川国際空港（韓国）、イスタンブール空港（トルコ）

対象航空会社：大韓航空（韓国）、ターキッシュエアラインズ（トルコ）

第三国輸送に関連する取組

【空港会社等】

- ラウンジ無料利用券、美容その他の各種治療の受診機会の提供。
- 中国人旅客向けのサービスの提供、若者ラウンジの開設。
- 海外の地方行政との連携、海外の観光業界に対する説明会の開催。

【航空会社】

- 無料市内ツアー及び無料宿泊サービスの提供。
- 国際便として扱われる乗継専用便の運航。

第三国輸送に係る今後の展望及び計画

【空港会社等】

- 国内線の売上規模等を踏まえた**第三国輸送の維持及び拡大**。
- 地理的優位性を活かした**ネットワークの拡大**。

【航空会社】

- 発着枠の確保、海外航空会社との連携**及びネットワークの拡大。

国内調査の内容

対象：第三国輸送の取組を実施していると考えられる日本の空港会社等及び航空会社

第三国輸送に関連する取組

【空港会社等】

- 同一ターミナルビルに同一の航空連合の航空会社を配置。
- ワンストップセキュリティ（乗継時の保安検査の省略。）。

【航空会社】

- 路線の就航、増便。
- ダイヤ設定（成田空港では夕方時間帯に乗継に適した便を集中。）。
- 米国の航空会社との共同事業。

第三国輸送に関する考え方

【空港会社等】

- 航空会社の戦略に沿う**形で、取組を行っていく姿勢。

【航空会社】

- 経済成長著しい**アジアと北米との間の第三国輸送**の獲得の重要性を認識。

第三国輸送に関する認識及び意向

- 調査対象においては、概ね**第三国輸送が重要**であるとし、**ハブ空港化及び第三国輸送の拡大**を今後も進めていく意向。

得られた知見（第三国輸送に関する取組における留意事項）

- 乗継旅客のニーズ及び性質**と取組内容との親和性があること。
- 取組のターゲット層を明確**にすること。
- （相乗効果を狙い、）**複数の取組**を並行して実施すること。
- 連携協力先として、**意欲及び積極性**のある機関、航空会社等を選定すること。
- 連携協力先へ**利点**を提供すること。
- 海外の空港との協力を活用し、航空会社の誘致につなげること。